

Relaxer サービス・フレームワーク J2EE Web システム開発を支援する

1. 背景

現在業務向け Web システム構築環境として主流となりつつある J2EE では、業務アプリケーションを構築するために高いスキルレベルを要求され、一般的な SE のスキルレベルとは大きな乖離が発生している。これはオブジェクト指向開発、コンポーネント技術、XML 技術といった難易度の高い新技術が一般のエンジニアの学習スピードを越えて速度で提供されているためである。

2. 目的

Relaxer サービス・フレームワークでは、オブジェクト指向開発、コンポーネント技術、XML 技術を駆使した Web システム構築を効率的に行なうためのツールとしてスキーマ・コンパイラ、コンポーネント・コンパイラ、コンポーネント・フレームワークを提供する。また、これらのツールを利用するための作業方法を定型化し、現場での適用を容易にするため、オブジェクト指向開発プロセスに対するカスタマイズを行い、これをハンドブックとして提供する。

3. 開発の内容

(a) Relaxer サービス・フレームワーク

Relaxer サービス・フレームワークは、スキーマ/コンポーネントコンパイラ Relaxer(図 1)と、Relaxer 向けのコンポーネント・フレームワークである Relaxer Component Framework(図 2)から構成される。

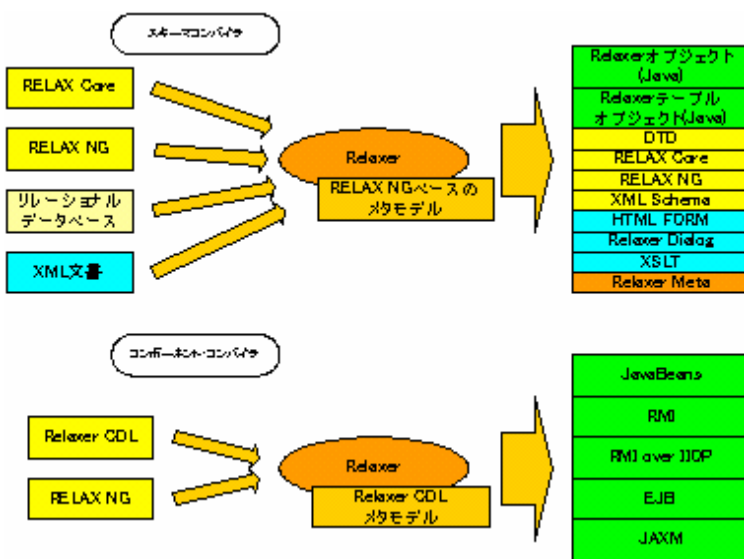


図 1. Relaxer

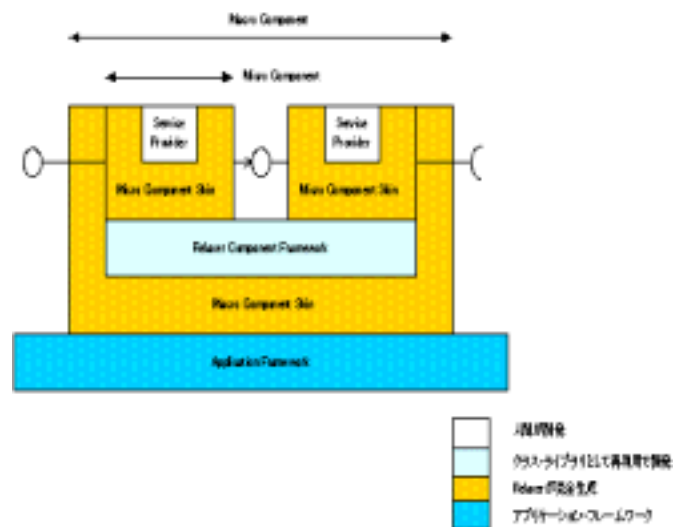


図 2. Relaxer Component Framework

(b) Relaxer プロセス・ハンドブック

Relaxer プロセスハンドブックは、Relaxer サービス・フレームワークを活用することを前提としたオブジェクト指向開発プロセスである Relaxer プロセスのハンドブックである。J2EE 上で Relaxer サービス・フレームワークを用いた Web システム開発を効率よく進めるための情報を提供する。

4. 従来技術との相違

従来技術では、J2EE Web アプリケーションの構築に際して、Web プレゼンテーションから EJB コンポーネントに至る部品をすべて手作りで開発する必要があった。Relaxer サービス・フレームワークを用いることで、最小限の定義からプレゼンテーションロジックや EJB コンポーネントが自動生成することができる。

5. 期待される効果

プログラムの自動生成および Relaxer コンポーネント・フレームワークの再利用が行われるため、開発効率の向上、開発コストの低減、品質の向上の効果がある。

6. 普及(または活用)の見通し

Relaxer 技術については、RELAX 利用者 ML による利用者のコミュニティが形成されている。また、Java 専門紙などで連載記事を含む多数の記事を提供しており、一般のエンジニアでの認知度も高まってきている。

7. 開発者名

浅海智晴(dp8t-asm@asahi-net.or.jp)

原田洋子(yoko-k-h@t3.rim.or.jp)

村田真(EB2M-MRT@asahi-net.or.jp)

平鍋健児(hiranabe@esm.co.jp)

株式会社クレオ(<http://www.creo.co.jp>)